

◆ 文学研究科

文学研究科の アドミッション・ポリシー

本研究科は、教育研究上の目的を実現するにふさわしい、次のような資質・能力・意欲を有する者を求める。

神道学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、神道学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、神道学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。
3. 社会人で、改めて神道学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、神道学を専門的に学ぼうとする者。
5. 神道学に関連する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 神道学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 神道学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

国文学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、国語・国文学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、国語・国文学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。
3. 社会人で、改めて国語・国文学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、国語・国文学を専門的に学ぼうとする者。
5. 国語・国文学に関する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 国語・国文学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 国語・国文学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

国史学専攻

博士前期課程

1. 専門性を備えた職業人をめざす学生・社会人で、国史学に関する専門知識とその研究方法を身に付けて、現場においてそれを実践しようとする意欲を有する者。
2. 研究者をめざす学生・社会人で、国史学の領域に関する問題意識を有し、研究活動を遂行するための基本的能力を身に付けようとする者。
3. 社会人で、改めて国史学に関する専門的知識と研究方法を学ぶことによって、生涯にわたって自らの見識と教養を高めてゆこうとする者。
4. 外国人留学生で、国史学を専門的に学ぼうとする者。
5. 国史学に関する学士課程修了者、またはそれと同等の学力を有する者。

博士後期課程

1. 国史学に関する強い問題意識を有し、専門的な研究活動を遂行しうる能力をもって社会に貢献しようとする意欲を有する者。
2. 国史学に関する強い問題意識を有するとともに、研究活動を遂行するための基本的能力を身につけており、将来自立した研究者をめざす者。

■ 文学研究科

特 色

1. 神道学、国文学、国史学各専攻により構成されている研究科であって、わが国の伝統的文化の究明とその発揚に主眼を置いています。
2. 校地は神宮の鎮まります清浄閑静な伊勢の地にあり、本学の設立の主旨からも本学と神宮とは密接な関係にあることから神道学、国文学、国史学の研究には絶好の位置と環境にあります。
3. 学会の碩学と中堅の教授陣が、緊密な協力のもとに研究と教育を進め、学生の指導については、各教員の専門分野に応じ徹底した個人教育を行います。
4. 神道学、国文学、国史学の各分野における豊富な貴重文献・資料を所蔵し、また学界の至宝とされている神宮文庫および神宮徴古館を直接利用することができます。
5. 有職者等を対象に長期履修制度を設けています。

修業年限

博士課程	神道学専攻 国文学専攻 国史学専攻	5年	※ただし前期2年（長期履修の場合3年～4年）および後期3年（長期履修の場合は4年～6年）の課程に区分し、前期2年の課程は修士課程として取り扱います。
------	-------------------------	----	--

入学定員

博士前期課程	神道学専攻	3名	博士後期課程	神道学専攻	2名
	国文学専攻	5名		国文学専攻	2名
	国史学専攻	5名		国史学専攻	2名

修了の要件

博士前期課程

博士前期課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学して必要単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受け、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、優れた研究業績を上げたことを大学院委員会が認めた場合は、大学院に3年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

学位の授与

博士前期課程修了者には皇學館大学修士（文学）、博士後期課程修了者には皇學館大学博士（文学）の学位がそれぞれ授与されます。

資 格

1、教員免許状

博士前期課程において、所定の単位を修得することにより、次の専修免許状が授与されます。

専 攻	取 得 で き る 免 許 状
神 道 学 専 攻	中学校教諭専修免許状（宗教）
	高等学校教諭専修免許状（宗教）
国 文 学 専 攻	中学校教諭専修免許状（国語）
	高等学校教諭専修免許状（国語）
国 史 学 専 攻	中学校教諭専修免許状（社会）
	高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

※免許教科については、取得している一種免許の教科に限りです。

2、神職資格

博士前期課程

博士前期課程神道学専攻では、必要単位を修得することにより、神職資格（明階）が授与されます。

博士前期課程

学部教育の成果を踏まえて、
さらに深い学識と研究能力を身につけます。

神道学専攻 (令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
神道学研究基礎論	講義	2	神道思想研究演習Ⅰ	演習	2
神道学研究法演習	演習	2	神道思想研究演習Ⅱ	演習	2
神道思想特殊講義Ⅰ	講義	2	祭祀学研究演習Ⅰ	演習	2
神道思想特殊講義Ⅱ	講義	2	祭祀学研究演習Ⅱ	演習	2
祭祀学特殊講義Ⅰ	講義	2	神道史研究演習ⅠA	演習	2
祭祀学特殊講義Ⅱ	講義	2	神道史研究演習ⅠB	演習	2
神道史特殊講義ⅠA	講義	2	神道史研究演習ⅡA	演習	2
神道史特殊講義ⅠB	講義	2	神道史研究演習ⅡB	演習	2
神道史特殊講義ⅡA	講義	2	神道史研究演習ⅢA	演習	2
神道史特殊講義ⅡB	講義	2	神道史研究演習ⅢB	演習	2
神道史特殊講義ⅢA	講義	2	神道史研究演習ⅣA	演習	2
神道史特殊講義ⅢB	講義	2	神道史研究演習ⅣB	演習	2
神道史特殊講義ⅣA	講義	2	神道古典研究演習Ⅰ	演習	2
神道史特殊講義ⅣB	講義	2	神道古典研究演習Ⅱ	演習	2
神道古典特殊講義Ⅰ	講義	2	宗教学研究演習Ⅰ	演習	2
神道古典特殊講義Ⅱ	講義	2	宗教学研究演習Ⅱ	演習	2
宗教学特殊講義Ⅰ	講義	2			
宗教学特殊講義Ⅱ	講義	2			

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
課題研究(研究指導)Ⅰ	演習	2	課題研究(研究指導)Ⅱ	演習	2

● 神職課程(専攻課程Ⅱ類)

神職資格(「明階」授与)の取得には下の授業科目より、必修38単位及び選択4単位以上を修得することが必要です。

(令和7年度 参考)

授 業 科 目	種 別	単位数	
		必 修	選 択
神道思想特殊講義Ⅰ	講義	2	
神道思想特殊講義Ⅱ	講義	2	
神道史特殊講義ⅠA	講義		2
神道史特殊講義ⅠB	講義		2
神道史特殊講義ⅡA	講義		2
神道史特殊講義ⅡB	講義		2
神道史特殊講義ⅢA	講義		2
神道史特殊講義ⅢB	講義		2
神道史特殊講義ⅣA	講義		2
神道史特殊講義ⅣB	講義		2
神道古典特殊講義Ⅰ	講義	2	
神道古典特殊講義Ⅱ	講義	2	
祭祀学特殊講義Ⅰ	講義	2	
祭祀学特殊講義Ⅱ	講義	2	
神道祭祀研究演習ⅠA	演習	2	
神道祭祀研究演習ⅠB	演習	2	
神道祭祀研究演習ⅡA	演習	2	
神道祭祀研究演習ⅡB	演習	2	
神道教化特殊講義Ⅰ	講義	2	
神道教化特殊講義Ⅱ	講義	2	
神社管理運営特殊講義Ⅰ	講義	2	
神社管理運営特殊講義Ⅱ	講義	2	
神道福祉特殊講義	講義	2	
宗教学特殊講義Ⅰ	講義	2	
宗教学特殊講義Ⅱ	講義	2	
神務実習(基礎実習)	実習	1	
神務実習(指定実習Ⅰ)	実習	1	
神務実習(指定実習Ⅱ)	実習	1	
神務実習(指定実習Ⅲ)	実習	1	
神務実習(中央・神宮)	実習	1	

神職課程(高等課程・専修課程・専攻課程Ⅰ類)修了者以外は、上記の42単位に加えて「専攻課程Ⅰ類」の「祝詞研究ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「祭式及び同行事作法A・B」「有職故実」「書道Ⅰ・Ⅱ」を履修しなければなりません。

教授 板井 正斉 (いたい まさなり)

所属学会◆日本宗教学会、「宗教と社会」学会、神道宗教学会

主な著書◆『ケアとしての宗教』(共編著平成25年、明石書店)

『ささえあいの神道文化』(単著平成23年、弘文堂)

主な論文◆「地域神社における被災状況の空間的特性に関する一考察－「宮城県被災神社一覧」を用いて－」『神道宗教』264・265号、25-47頁
「「推定宗教法人データ」による寺社半径500m内 推定人口のGIS分析」『宗教と社会』25、127-134頁

神道史特殊講義ⅣA・ⅣB

現代神道史に関する諸課題について、神社本庁の調査・報告書や関連領域の論文等を講読し、地域神社をめぐる社会変容の影響について、課題の認識力と学術的動向の把握能力を養う。

神道史研究演習ⅣA・ⅣB

現代神道史に関する諸課題について、主に神社本庁の調査・報告書（「神社に関する意識調査報告書」等）を手がかりに、地域神社をめぐる社会変容の影響について分析・考察する。

教授 河野 訓 (かわの さとし)

所属学会◆日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本道教学会、神道史学会、日本仏教学会

主な著書◆「初期漢訳仏典の研究」(皇學館大学出版部 平成 18.3)、『漢訳仏伝研究』(皇學館大学出版部 平成 19.3)、『中国の仏教 受容とその展開』(皇學館大学出版部 平成 20.3)、『観音経事典』(共編著 柏書房 平成 7.11)、『逆引仏教語事典』(共編 柏書房 平成 7.2)、『漢梵法華経索引』(共編 いんなあとりつぶ社 平成 15.2)、『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝 仏教の東伝と受容』(共著 佼成出版社 平成 22.12)、『世界宗教百科事典』(共編著 丸善 平成 24.12)、『宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究』(科研報告書、平成 25.3)、『明治維新期の神仏分離政策の波及と宗教都市伊勢の神仏分離』(科研報告書、平成 28.3)、『明治維新期の宗教都市伊勢の変容と府・藩・県における神仏分離政策の展開』(科研報告書、平成 31.3)

主な論文◆「神道系教団の社会奉仕活動とその理念」(『皇學館大学神道研究所紀要』第 19 輯、平成 15.3)、「神道系教団の社会奉仕活動とその理念(二)」(『皇學館大学神道研究所紀要』第 20 輯、平成 16.3)、「古代日本人の靈魂観」(『論集 カミとほとけ－宗教文化とその歴史的基盤－』ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集第三号、平成 17.12)、「日本の宗教文化」(『日本言語文化研究会論集』第 3 号、平成 19.9)

宗教学特殊講義Ⅰ・Ⅱ

日本の宗教を語るうえで仏教を抜きにして論じることはいかならない。この講義では、飛鳥時代、奈良時代に重用された仏典を読む。仏教漢文は特殊であり、その形式は日本書紀等に影響を与えているといわれる。具体的に取り上げるのは『勝鬘経』、『妙法蓮華経』、『大雲輪請雨経』、『安宅神呪経』、『金剛般若波羅蜜経』、『仁王般若波羅蜜経』、『金光明経』、『金光明最勝王経』である。全文を読み終えることは難しいので、それぞれ経典から抜粋して読む。

宗教学研究演習Ⅰ・Ⅱ

インドで発生し、東アジアに大きな影響を与えた宗教に仏教がある。しかし、仏教が東アジアに伝来する以前にすでに中国には儒家思想や道家思想など種々の洗練された思想があり、宗教的にも独自のものを持っていた。仏教が中国に流入すると、周辺民族は「えびす」(胡、戎など)であると見る中華思想を有していた中国思想界は仏教をえびすの教えとして排除しようとする。その一方で、中国在来の教えとして道教が宗教のかたちを取り始め、仏教と対抗するようになる。この演習では儒・仏・道の三教の交渉史を文献を通じて読み解いていく。

教授 中山 郁 (なかやま かおる)

所属学会◆日本宗教学会、日本山岳修験学会、神道宗教学会、大学教育学会

主な著書◆『修験と神道のあいだ－木曾御嶽信仰の近世・近代』(弘文堂、平成 19 年)、『木曾のおんたけさん その歴史と信仰』(共著、岩田書院、平成 21 年)、『教員力ステップアップ講座 あなたの授業を豊かにする究極の一冊』(共著、國學院大學教育開発推進機構、平成 26 年)

主な論文◆「遺骨収集の「再開」と戦友会－東部ニューギニア戦友会の活動を中心として－」(『戦争社会学研究』第 2 巻、平成 30 年)、「陸軍における戦場慰霊と英霊観」(阪本是丸責任編集『昭和前期の神道と社会』弘文堂、平成 28 年)、「「祭」と「教」の間で－教派神道と皇典講究所・國學院」『神社新報』3250、3251、3552 号、平成 27 年)

神道学研究基礎論

この授業では研究計画書作成・研究倫理・学術的なプレゼンテーションや論文作成方法など、今後の学術研究に必須のアカデミックスキルの指導を行ったうえで、学会発表に準じた発表を繰り返し行うことを通じて指導します。

以上を通じて、受講学生は学術的な研究活動に必要なとなるスキルの基礎を身につけることが可能となります。

祭祀学特殊講義Ⅰ・Ⅱ

この授業では近代における教派神道ならびに新宗教運動の展開過程について、国家の宗教政策ならびに神道的な教えや「祭式」とのかかわりの観点から論じてゆきます。授業を通じて受講学生は、近代日本における神道系教団の概要とその展開過程について理解することができましよう。

祭祀学研究演習Ⅰ・Ⅱ

この授業では、日本における民俗宗教「修験道」の展開について、とくに山の祭祀者としての修験者の側面に留意しつつ講義をおこないます。そのうえで、近年の修験道研究に見られる、既存のパラダイムを破り新たな研究を打ち立てようとする動きについて紹介します。これを通じて受講学生は先行研究の批判と新たな視座の立て方についてのモデルケースを知ることになりましよう。

教授 新田 均 (にった ひとし)

所属学会◆日本公法学会、比較憲法学会、憲法学会、日本宗教学会、宗教学会、日本思想史学会

主な著書◆『近代政教関係の基礎的研究』大明堂

『現人神』『国家神道』という幻想』PHP研究所

主な論文◆「近代政教関係研究についての一試論」『皇學館論叢』31-1、
「『国家神道』論の系譜」(上)(下)『皇學館論叢』32-1・2、「近代日本政教関係の時代区分について」、憲法政治
学研究会編『近代憲法への問いかけ』成蹊堂

神道史特殊講義ⅢA・ⅢB

近世・近代の神道を中心とした政教関係について、私自身の論文を中心にその他の論文を併用しながら講義する。また、修士論文をまとめていく際の要点についても講義する。

神道史研究演習ⅢA・ⅢB

近世・近代の神道を中心とした政教関係について、私自身の論文を中心にその他の論文を併用しながら、それを読解してレジュメ発表してしてもらうことを通じて、この時代の神道史やそれについての研究史の専門知識を修得してもらう。同時に、修士論文をまとめていく上での要点を自覚できるようにする。

教授 橋本 雅之 (はしもと まさゆき)

所属学会◆萬葉学会、上代文学会、古事記学会

主な著書◆『風土記－日本人の感覚を読む－』角川選書 平成 28.10、『風土記上』(共著)角川ソフィア文庫 平成 27.6、『日本人の〈原罪〉』(共著)講談社現代新書 平成 21.1、『古風土記の研究』和泉書院 平成 19.1、『古風土記並びに風土記逸文語句索引』和泉書院 平成 11.10

主な論文◆「古風土記における過去と現在」平成 13.1「古風土記の世界観と編纂思想」平成 14.9「古風土記における地理と説話」平成 15.11『『常陸国風土記』の文体－「存」を中心にして－』平成 21.7

神道古典特殊講義Ⅰ・Ⅱ

古事記・日本書紀・風土記を中心として、日本神話や説話伝承の特色、宗教的・文化的意義について講義します。最新の研究成果を紹介しながら、これからの研究方法を考えていきたいと思います。

神道古典研究演習Ⅰ・Ⅱ

特殊講義をベースとして、古典テキストの訓話注釈をおこないます。古典資料の読み方、中国文学の影響などの多方面からテキストクリティックをおこない、研究者としての調査方法をマスターしてもらいます。

教授 松本 丘 (まつもと たかし)

所属学会◆神道史学会、神道宗教学会、明治聖徳記念学会、鈴屋学会ほか

主な著書◆『尚仁親王と栗山潜鋒』神道史学会 平成 16.5

『垂加神道の人々と日本書紀』弘文堂 平成 20.7

『神道資料叢刊十八 橋家神道未公刊資料集一』(皇學館大学神道研究所、令和 4.3)

神道思想特殊講義Ⅰ・Ⅱ

江戸時代に隆盛した垂加神道関係の書物を用いながら、山崎闇斎を始めとする同神道派諸家の思想について考える。

神道思想研究演習Ⅰ・Ⅱ

江戸時代中期に起こった宝暦・明和事件関連の諸資料を講読し、当時の朝幕関係や尊王思想の実際について考察する。

准教授 塩川 哲朗 (しおかわ てつろう)

所属学会◆神道史学会、神道宗教学会、史学会、日本書紀研究会

主な著書◆『日本書紀・古語拾遺・神祇典籍集』(共著、朝倉書店、平成 28.3)、『古代の祭祀構造と伊勢神宮』(単著、吉川弘文館、平成 30.11)、『事典 古代の祭祀と年中行事』(共著、吉川弘文館、平成 31.1)、『真福寺善本叢刊〈第三期〉神道篇(1) 神道古典』(共著、臨川書店、令和 1.9)、『企画展「大嘗祭」図録』(共著、國學院大學博物館、令和 1.11)、『伊勢神宮未公刊資料集(絵図篇)』(共著、令和 6.2)

主な論文◆「神宮に関する由緒の変化とその背景」(國學院大學研究開発推進センター研究紀要 19、令和 7.3)、「伊勢と出雲の祭祀構造」(島根県古代文化センター研究論集 33、令和 6.3)、「古代神宮三節祭と日別朝夕大御饗祭」(瑞垣 255、令和 5.6)、「大嘗祭の基本構造とその形成・成立」(日本書紀研究 34、令和 4.5)、「現代の『日本書紀』研究」(神道宗教 259・260、令和 2.10)、「『真床襲衾』をめぐる折口信夫大嘗祭論とその受容に関する諸問題」(國學院大學校史・学術資産研究 11、平成 31.3)

神道史特殊講義ⅠA・ⅠB

本講義は古代・中世神道史に関する重要資料の講読を通し、古代・中世の神祇、神社、祭祀についての基礎的理解を深め、様々な課題・問題について専門的な見地から議論する。併せて関連する研究論文を参照し、現在の研究水準を確認する。基礎史料の読解力、基礎事項への理解を深め、古代の神祇信仰の核心に迫ることが目的である。令和 7 年より神宮式年遷宮の諸祭典が開始されたが、本講義では延暦 23 年(804)に成立した神宮最古の記録である『延暦儀式帳』の遷宮関係記事を中心に講読を行う。併せて延長 5 年(927)に成立した『延喜式』の関係条文を参照する。

神道史研究演習ⅠA・ⅠB

本演習は古代・中世神道史に関する重要資料の読解とその発表を通し、古代・中世の神祇、神社、祭祀についての基礎的理解を深め、様々な課題・問題について専門的な見地から議論する。本演習では「職員令」神祇官条の講読を行い、各条文に関する調査・発表を行う。『令集解』を基礎テキストとし、神祇官条本文と諸注釈を読解しつつ、令和 9 年に成立 1100 年を迎える『延喜式』の関係条文を参照する。基礎資料の読解力ならびに調査能力を養いつつ、古代の神祇信仰の核心に迫ることが目的である。

国文学専攻 (令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
古典文学特殊講義ⅠA	講義	2	古典文学研究演習ⅠA	演習	2
古典文学特殊講義ⅡA	講義	2	古典文学研究演習ⅡA	演習	2
古典文学特殊講義ⅠB	講義	2	古典文学研究演習ⅠB	演習	2
古典文学特殊講義ⅡB	講義	2	古典文学研究演習ⅡB	演習	2
古典文学特殊講義ⅠC	講義	2	古典文学研究演習ⅠC	演習	2
古典文学特殊講義ⅡC	講義	2	古典文学研究演習ⅡC	演習	2
古典文学特殊講義ⅠD	講義	2	古典文学研究演習ⅠD	演習	2
古典文学特殊講義ⅡD	講義	2	古典文学研究演習ⅡD	演習	2
近代文学特殊講義Ⅰ	講義	2	近代文学研究演習Ⅰ	演習	2
近代文学特殊講義Ⅱ	講義	2	近代文学研究演習Ⅱ	演習	2
国語学特殊講義Ⅰ	講義	2	国語学研究演習Ⅰ	演習	2
国語学特殊講義Ⅱ	講義	2	国語学研究演習Ⅱ	演習	2
漢文学特殊講義Ⅰ	講義	2	漢文学研究演習Ⅰ	演習	2
漢文学特殊講義Ⅱ	講義	2	漢文学研究演習Ⅱ	演習	2

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
課題研究(研究指導)Ⅰ	演習	1	課題研究(研究指導)Ⅲ	演習	1
課題研究(研究指導)Ⅱ	演習	1	課題研究(研究指導)Ⅳ	演習	1

学長 齋藤 平 (さいとう たいら)

所属学会◆日本語学会、社会言語科学会、萬葉学会、鈴屋学会、解釈学会

主な著書◆『「神風の」考』(伊勢神宮崇敬会 平成26年7月)、『伊勢志摩圏域を中心とした言語研究』(ゼロ 平成24年9月)、『伊勢市史(民俗編)』第8巻(伊勢市 平成21年8月)

主な論文◆「神宮文庫蔵『日本書紀私見聞』の濁点表示」(『神宮と日本文化』皇學館大学平成24年4月)、「「然」の訓をめぐる位相の交差－鈴鹿本今昔物語集の場合－」(『解釈』第56巻11・12合併号 平成22年12月)、「津波記念碑の伝承」(『皇學館大学紀要』第46輯、平成20年3月)、「日本書紀の「餐」について」(『上代語と表記』おうふう 平成12年10月)

国語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ

山田孝雄『平安朝文法史』を読み、山田文法の重要概念について考察する。

国語学研究演習Ⅰ・Ⅱ

文字は別字であっても音や形によって相通させる場合がある。そこにある規則性については明らかになっていない。字形が近似している漢字について『校本萬葉集』の異同に基き考察する。

教授 大島 信生 (おおしま のぶお)

所属学会◆万葉学会、上代文学会、古事記学会、美夫君志会、日本語学会、鈴屋学会

主な著書◆『万葉集の表記と訓詁』(おうふう 平成20年9月)

主な論文◆「万葉集卷十三、三二二七～三二二九歌をめぐって」(『国語と国文学』93-8、平成28年8月)、「万葉集卷十三、三二二三・三二二四歌の解釈をめぐって」(『美夫君志』第95号、平成30年1月)、「天武天皇挽歌をめぐって－卷二・一六〇歌を中心に－」(『万葉』第225号、平成30年2月)、「人麻呂歌集「寄物陳思」歌二首の解釈－卷十一・二四五六番、二四五七番－」(『上代学論叢』、和泉書院、令和元年5月)、「日本書紀の訓読をめぐって－第一段冒頭部を中心に－」(『藝林』第69巻第2号、令和2年10月)

古典文学特殊講義ⅠA・ⅡA

万葉集についての講義。まず万葉集について概説し、その後、一首ずつその本文と訓・解釈について考察する。新しい研究成果も取り入れ、新見が出せるよう努めたい。古事記についても述べていきたい。

古典文学研究演習ⅠA・ⅡA

演習の目的は、訓詁注釈に根差した万葉集研究法の修得である。研究は、万葉歌の本文及び訓を定めることから始める。その上で解釈に進んでいく。本文・訓の検討から解釈に至るまで、自分で結論が導き出せるようにする。古事記についても対象とする。

教授 木村 尚志 (きむら たかし)

所属学会◆中世文学会、和歌文学会、中古文学会、日本文学協会、全国大学国語国文学会 ほか。

主な著書◆『和歌文学大系 38 続古今和歌集』(明治書院、令和元年)、『中世和歌の始まり 京と鎌倉をつなぐ文化交流の軌跡』(花鳥社、令和3年)

主な論文◆「中世の旅と歌枕－浜名の橋を中心に」(『国語と国文学』86-6、平成21年6月)、「宗尊親王の和歌と『萬葉集』」(『中世文学』54、平成21年)、「駒迎と東国の歌枕」(『日本文学風土学会紀事』36、平成24年3月)、「西行と小野・大原－数奇をめぐって」(『西行学』11、平成32年10月)

古典文学研究演習ⅠB

慈円の歴史書『愚管抄』を読む。慈円は歌人、天台座主、政治家として活躍し、その多面的な視点から歴史を捉えた。本書は、「仏の道と法性の理」に基づく世界観を通じて、歴史の推移に潜む道理を説く。背景には、九条家が天照大神と天兒屋根命の約諾により天皇家と協力して世を治めるという摂関家の理想がある。春学期は、保元の乱前後の歴史を精緻に描いた巻四・巻五を中心に読み、慈円の歴史観を考察する。

古典文学研究演習ⅡB

慈円の歴史書『愚管抄』を読む。慈円は歌人、天台座主、政治家として活躍し、その多面的な視点から歴史を捉えた。本書は、「仏の道と法性の理」に基づく世界観を通じて、歴史の推移に潜む道理を説く。背景には、九条家が天照大神と天兒屋根命の約諾により天皇家と協力して世を治めるという摂関家の理想がある。秋学期は保元の乱後、次の大乱である承久の乱前夜に至る歴史を叙した巻六と史論である巻七を読む。

教授 田中 康二 (たなか こうじ)

所属学会◆日本近世文学会、和歌文学会、和漢比較文学会、日本文学協会、鈴屋学会、東方学会 ほか。

主な著書◆『村田春海の研究』(汲古書院、平成12年)、『江戸派の研究』(同前、平成22年)、『琴後集』(明治書院、平成21年)『本居宣長の思考法』(ベリかん社、平成17年)、『本居宣長の東夷戦争』(同前、平成21年)、『本居宣長の国文学』(同前、平成27年)、『国史学再考』(新典社、平成24年)、『本居宣長』(中公新書、平成26年)、『真淵と宣長』(中公叢書、平成29年) ほか。

古典文学特殊講義ⅠC・ⅡC

古典文学作品へのアプローチとして、俗語訳(口語訳)を取り上げ、それが近世期を通して成立し、国文学を理解し研究する方法として定着する過程を探究する。

古典文学研究演習ⅠC・ⅡC

本居宣長『古今集遠鏡』と尾崎雅嘉『古今集鄙言』を比較検討し、古典文学作品を上方語に翻訳する手法の共通点と相異点について具体的に検討する。

教授 松下 道信 (まつした みちのぶ)

所属学会◆日本道教会、東方学会、日本中国学会、日本宗教学会、中国社会文化学会

主な著書◆『宋金元道教内丹思想研究』(汲古書院、平成31年)、『格致餘論注釈』(医聖社、平成26年、共著)

主な論文◆「中世神道の道教受容－吉田神道所伝『太上説北斗元靈経』版本再論－」(『日本漢籍受容史－日本文化の基層－』、令和4年11月)、「モンゴル朝における道仏論争について－『至元辯偽録』に見える禪宗の全真教理解－」(『元朝の歴史－モンゴル帝国期の東ユーラシア－』(アジア遊学256)、令和3年5月)、「金代の道教－「新道教」を越えて－」(『金・女真の歴史とユーラシア東方』(アジア遊学233)、平成31年4月)

漢文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ

中国近世期に成立し、中国のみならず、日本を含む周辺諸国にまで大きな影響を与えた朱子学は、仏教や道教など他の思想との競合や融和の中で成立し、展開した。本講義では資料に基づき、朱子学にとどまらず、近世に展開した儒道仏三教交渉の実像に迫りたい。

漢文学研究演習Ⅰ・Ⅱ

本演習では、資料の読解力をつけるだけでなく、工具書の使用方法を習得し、あわせて当時の学術的なあり方への理解を深めることを目的とする。具体的には、『四庫全書』子部儒家類に見える項目に従いつつ、提要だけでなく、その書を著した人物の伝記、さらに著作を確認し、正確な読解を行う。

国史学専攻 (令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
国史学特殊講義ⅠA	講義	2	国史学研究演習ⅠA	演習	2
国史学特殊講義ⅡA	講義	2	国史学研究演習ⅡA	演習	2
国史学特殊講義ⅠB	講義	2	国史学研究演習ⅠB	演習	2
国史学特殊講義ⅡB	講義	2	国史学研究演習ⅡB	演習	2
国史学特殊講義ⅠC	講義	2	国史学研究演習ⅠC	演習	2
国史学特殊講義ⅡC	講義	2	国史学研究演習ⅡC	演習	2
国史学特殊講義ⅠD	講義	2	国史学研究演習ⅠD	演習	2
国史学特殊講義ⅡD	講義	2	国史学研究演習ⅡD	演習	2
国史学特殊講義ⅠE	講義	2	国史学研究演習ⅠE	演習	2
国史学特殊講義ⅡE	講義	2	国史学研究演習ⅡE	演習	2
特殊文献講義Ⅰ	講義	2	特殊文献演習Ⅰ	演習	2
特殊文献講義Ⅱ	講義	2	特殊文献演習Ⅱ	演習	2

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
関係外国史特殊講義	講義	2	課題研究(研究指導)Ⅰ	演習	2
関係外国史研究演習	演習	2	課題研究(研究指導)Ⅱ	演習	2
国史学研究法(資料論)	講義	2			

教授 遠藤 慶太 (えんどう けいた)

所属学会◆日本古文書学会、木簡学会、正倉院文書研究会

主な著書◆『平安勅撰史書研究』(皇學館大学出版部、平成18年)、『東アジアの日本書紀 歴史書の誕生』(吉川弘文館、平成24年)、『日本書紀の形成と諸資料』(塙書房、平成27年)、『六国史 日本書紀に始まる古代の「正史」』(中央公論新社、平成28年)、『人物叢書 仁明天皇』(吉川弘文館、令和4年)

主な論文◆「古写経の印記「松宮内印」について」、続日本紀研究会編『続日本紀と古代社会』(塙書房、平成26年)、「難波津の歌の広がり－大伴家持の「桜花」詠をめぐる－、『万葉集研究』36(塙書房、平成28年)、「時の簡について」、木本好信編『古代史論聚』(岩田書院、令和2年)、「歴史叙述のなかの「継体」、史学会『史学雑誌』129編10号、令和2年

国史学特殊講義ⅠA

皇學館大学附属図書館澤瀉文庫所蔵の藤波家本『令義解』(神祇令)をとりあげ、写本による令文の精読を通して史料の内容を的確に読解し、神祇祭祀の制度・令文解釈の研究方法について自身で考察を深める力を養う。

国史学特殊講義ⅡA

平安前期にまとめられた儀式書『内裏式』をとりあげ、儀式書の精読を通して史料の内容を的確に読解し、これまでの研究史を踏まえながら、平安時代の年中行基の形成について自身で考察を深める力を養う。

研究科長(教授) 岡野 友彦 (おかの ともひこ)

所属学会◆国史学会、日本古文書学会、中世史研究会、日本史研究会、戦国史研究会、史学会、日本宗教文化史学会

主な著書◆「中世久我家と久我家領荘園」(平成14年・統群書類従完成会)、『北畠親房－大日本は神国なり－』(平成21年・ミネルヴァ日本評伝選)、『院政とは何だったか－「権門体制論」を見直す－』(平成25年・PHP新書)、『戦国貴族の生き残り戦略』(平成27年・吉川弘文館)、『源氏長者－武家政権の系譜－』(平成30年・吉川弘文館)、『中世伊勢神宮の信仰と社会』(令和3年・皇學館大学出版部)

主な論文◆「家康生涯三度の源氏公称・改姓」（二木謙一編『戦国織豊期の社会と儀礼』吉川弘文館 平成18年）、「伊勢中世都市の歴史的位置づけ」（『中世都市研究』13号 新人物往来社 平成19年）、「修理職領から禁裏領へ」（坂田聡編『禁裏領山国荘』高志書院 平成21年）、「権門都市宇治・山田と地域経済圏」（『年報中世史研究』38号 平成25年）、「久我晴通（宗入）をめぐる諸問題」（『國學院雑誌』122巻11号 令和3年）

国史学特殊講義ⅠC・ⅡC

「神鳳鈔」の講読を通して中世伊勢神宮領御厨・御園について論じていく。また修士論文の作成に向けた中間報告も実施する。

国史学研究演習ⅠC・ⅡC

中世後期の伊勢神宮領御厨・御園について考察する。また修士論文の作成に向けた中間報告も実施する。

教授 多田 實道（ただ じつどう）

所属学会◆日本古文書学会、中世史研究会、鎌倉遺文研究会、神道史學會、日本印度学仏教学会 ほか

主な著書◆『紀伊半島東部 曹洞宗史研究』（山喜房佛書林、平成20年）
『伊勢市史』第二巻中世編（共著。伊勢市、平成23年）
『伊勢神宮と仏教－習合と隔離の八百年史－』（弘文堂、平成31年）

主な論文◆「真盛上人の伊勢信仰について－天照大御神男体観を中心に－」（『日本仏教会年報』第85号、令和2年）、「『武家年代記』裏書の研究－編者・六波羅探題・元弘の変－」（皇學館大学編『皇学論纂』所収、令和4年）、「文永博多湾岸合戦考」（『皇學館史学』第38号、令和5年）

国史学特殊講義ⅠB・ⅡB

『鎌倉大日記』を網文とし、その関連史料の蒐集・併読を通して、日本中世史の諸相を考察する。

国史学研究演習ⅠB・ⅡB

『鎌倉大日記』を網文とし、その関連史料を蒐集・併読することで、日本中世史研究の具体的方法を探求する。

教授 谷口 裕信（たにぐち ひろのぶ）

所属学会◆史学会、日本歴史学会、日本史研究会、大阪歴史学会、地方史研究協議会、首都圏形成史研究会

主な著書◆『近代日本の地方行政と郡制』（吉川弘文館、令和4年）
『日記に読む近代日本』（共著、吉川弘文館、平成24年）
『伊勢市史』第四巻近代編（共著、伊勢市、平成24年）

主な論文◆「利根川・渡良瀬川合流地域の被災情報－旧伊勢御師宛書簡を手がかりに」（土田宏成ほか編『関東大水害』日本経済評論社、令和5年）、
「神苑会の活動と明治の宇治山田」（ジョン・グリーン編『変容する聖地 伊勢』、思文閣出版、平成28年）、
「『岩倉公実記』の編纂と公文書」（『皇學館史学』31、平成28年）

国史学特殊講義ⅠE・ⅡE

日本近現代史に関する英語論文を講読し、あわせて同じテーマに関する日本の研究状況を把握して、日本近現代史研究の裾野の広がり認識する。

国史学研究演習ⅠE・ⅡE

明治政治史の重要史料である『秘書類纂』と、近代日本の政治家日記の白眉である『原敬日記』を講読して、近代国家の形成と展開について考察する。各自の研究報告も実施する。

教授 松浦 光修（まつうら みつのぶ）

所属学会◆神道史学会、日本思想史学会、鈴屋学会、明治聖徳記念学会

主な著書◆『大国隆正の研究』（神道文化会）平成13年、編著『大国隆正全集』第8巻（図書刊行会）平成13年、『夜の神々』（慧文社）平成17年、『新訳 南洲翁遺訓 西郷隆盛の遺した「敬天愛人」の教え』（研究所 平成20年）、『新訳 留魂録 吉田松陰の「死生観」』（PHP研究所 平成23年）、『日本は天皇の祈りに守られている』（致知出版社 平成25年）、『新釈 講孟余話 吉田松陰、かく語りき』（PHP研究所 平成27年）

主な論文◆「吉田松陰と大国隆正－幕末維新期における国学（皇学）思想史の一側面」（『皇學館史学』第28号、平成25年）、「幕末国学と孔子－竹尾正胤の『魯叟孔丘弁』を中心として」（『神道史研究』第67巻第1号、令和元年）、「皇学の発生－契沖の『歌学』・春満の『神学』（『皇学論纂』、令和4年）」

国史学特殊講義ⅠD・ⅡD

垂加神道、水戸学、復古神道などの諸文献を読解しつつ、近世の尊王思想の特質を明らかにし、明治維新の思想的な前程を考察する。

国史学研究演習ⅠD・ⅡD

著明な思想家、政治家などの文政年間から、明治初年までの、遺文を、年代を追って読みつつ、明治維新に至るまでの具体的な思想の流れを考察する。

教授 堀内 淳一（ほりうち じゅんいち）

所属学会◆史学会、歴史学研究会。六朝学会、コンテンツ文化史学会ほか

主な著書◆『全訳後漢書』（11、12）（共著、汲古書院、平成十六年）、『北朝社会における南朝文化の受容』（東方書店、平成三十年）、『漢とは何か』（共著、東方書店、令和四年）

主な論文◆「日本における「日本史」と「中国史」のイメージ形成」（『調査研究報告』（学習院大学東洋文化研究所）第64号、平成30年）、「『漢化政策』來源考」（『東洋史研究』79巻3号、令和二年）、「健康から長安へ：陳滅亡後の江南貴族」（『唐代史研究』第26号、令和五年）

特殊文献講義Ⅰ・Ⅱ

東アジア地域の歴史について、中国の正史と、それ以外の国で作られた歴史書を対比させることで、東アジア古代史研究に対する理解を深める。

特殊文献演習Ⅰ・Ⅱ

中国の正史とそれに関連する墓誌・竹簡・木簡などを比較、検証することで、当該時期の歴史についての理解を深めるとともに、伝世史料と出土史料の史料的扱い方を身に着ける。

博士前期課程 募集要項

募集人員

神道学3名・国文学5名・国史学5名
(一般選考・社会人選考・外国人選考)

出願資格

■一般選考・社会人選考

- (1) 大学を卒業した者及び令和8年3月迄に卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条の規定により学士の学位を授与された者。
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。
- (7) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

※神道学専攻の神職課程履修にあたっては、祭式及び同行事作法・神務実習を主として正座で行うため、正座ができることを要する。

■外国人選考

各項のいずれかに該当する者。

- (1) 外国の国籍を有し、外国において学校教育における16年の課程を修了した者、または令和8年3月迄に修了見込みの者。
 - (2) 日本において外国人留学生として大学を卒業した者、または令和8年3月迄に卒業見込みの者。
 - (3) その他、本大学院において上記の(1)(2)に準じると認められる者。
- 各項のすべてに該当する者。
- (4) 「日本語能力試験」においてN1に認定された者、または日本留学試験〔日本語(記述式問題を含む)〕において日本語230点以上および記述30点以上を得点した者。
 - (5) 本大学院入学後は、「出入国管理および難民認定法」に定める「留学」の在留資格を取得できる者。
 - (6) 本大学院入学から修了までの学費等を確実に支弁できる者。
 - (7) 日本に在住する身元保証人のある者。

出願期間・試験日

試験場：本学

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
一次募集	令和7年 9月8日(月) ～ 9月16日(火)	9月28日(日)	9月29日(月)	(入学金・その他) 9月29日(月) ～ 10月28日(火)
二次募集	令和8年 2月2日(月) ～ 2月9日(月)	2月22日(日)	2月24日(火)	(入学金・その他) 2月24日(火) ～ 3月10日(火)

※出願は、学生支援部 入試担当にて9:00～17:00まで受け付けます。
郵送の場合は締切日必着。
(土曜日の午後、日曜日、祝日は休業)

選考方法・学力検査・時間割

- (1) 選考は、学力検査・口頭試問・最終出身学校の学業成績によります。
- (2) 試験の成績によっては、入学定員に達しない場合でも入学を許可しません。

〈神道学専攻・国文学専攻・国史学専攻〉

●一般選考

社会人選考・外国人選考以外の志願者を対象とする。

専門科目	専門分野における筆記試験	10:00～12:00
外国語等	英語。但し、神道学・国文学専攻については資料読解を、国史学専攻については史料読解を英語に代えることができる。〔受験科目に関する辞書の持ち込み可。(電子辞書類を除く)〕	13:00～14:00
口頭試問	主として専攻の学科に関して行う。	14:30～

※外国人受験生の外国語については、母国語が英語の場合、英語は受験できません。

●社会人選考

入学時に、学士取得後3年以上継続して社会的実務経験を有するものであること。(家事従事者を含む)

専門科目 (小論文)	1,000～1,200字 各専攻の基礎学力について実施する。 (複数題の中から1題を選択)	10:00～12:00
口頭試問	主として専攻の学科に関して行う。	13:00～

●外国人選考

外国人選考の出願資格を満たす志願者を対象とする。

専門科目 (小論文)	1,000～1,200字(日本語) 各専攻の基礎学力について実施する。 (複数題の中から1題を選択)	10:00～12:00
外国語 (日本語)	文献を読解する学力について実施する。 [辞書の持ち込み可(電子辞書類を除く)]	13:00～14:00
口頭試問	主として各自の研究領域に関して試問する。(日本語)	14:30～

出 願 手 続

◆出願書類

(1) 出願確認票

インターネット出願で登録後にプリンターで「出願確認票」を印刷し、送付してください。

(2) 入学志願者調書(本学所定)

(3) 卒業証明書または卒業見込証明書(最終出身大学)

(4) 単位成績証明書(最終出身大学。但し最終出身大学に編入学の場合は、編入学前の単位成績証明書も併せて添付)

(5) 長期履修申請書(本学より送付)※希望者のみ

(6) 卒業論文または、それに相当する論文の写し。卒業論文を課せられなかった者は、専攻しようとする学科に関する小論文。(400字詰原稿用紙15枚以上20枚以内。または6000字～8000字以内。)

(7) 卒業論文または、それに相当する論文の要旨。(400字詰原稿用紙5枚以内または2000字以内)一次募集出願者は(6)(7)共に不要。但し既卒者は(6)(7)共に必要。

(8) 入学検定料 30,000 円

【外国人選考】上記の他に以下の書類を提出してください。

(9) 日本在住保証人届[本学所定用紙]

(10) 出願資格(1)である、『外国の国籍を有し、外国において学校教育における16年の過程を終了した者。または修了見込みの者』に該当する者は、外国出身学校の

- ・卒業(修了)証明書または卒業見込み証明書
- ・学業成績証明書

(11) 健康診断書[本学所定用紙]

(12) パスポートの写し[氏名・生年月日・顔写真・旅券番号・有効ビザ等が確認できるページの写し]

(13) 「在留カード」の両面の写し

(14) 「日本語能力試験」、「日本留学試験」の過去2年以内の成績証明書の写し

※(2)・(9)・(11)は、皇學館大学受験生サイトからダウンロードしてください。

※日本語または英語以外の出願書類は、大使館等の公的機関から証明を受けた和訳文または英訳文も必ず添付してください。また、証明書等の氏名、生年月日は、パスポート記載と同一のものを提出してください。

※郵送の場合は、本学所定の封筒へ出願書類を封入のうえ、書留にて郵送してください。締切日必着。

◆出 願 先 皇學館大学 学生支援部 入試担当

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704

Tel 0596-22-6316(直)

合格発表について

(1) インターネットによる合否案内は、皇學館大学ホームページの受験生サイトに合格発表当日10時頃から利用できます。



◆注意

(1) 手続期間経過後の入学手続きは、一切認めません。

(2) 電話等による合否のお問い合わせには、一切応じません。

入学年度の納付金

(令和8年度 予定)

項 目	入学手続時	秋 学 期	備 考
入 学 金	200,000 円	—	本学学部卒業生、本大学院修士課程及び博士前期課程の修了生並びに本学神道学専攻科の修了生は、入学金を免除し、教育充実費は半額とする。再入学の場合の入学金は、免除とする。
授 業 料	287,500 円	287,500 円	
教育充実費	50,000 円	50,000 円	
計	537,500 円	337,500 円	

入学手続時の納付金を完納した者が、令和8年3月31日(火)までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除いた納付金を返還いたしますので、該当の際は速やかに学生支援部入試担当までご連絡ください。ただし、専願の入試については、原則として入学辞退はできません。

博士後期課程

自立した研究者として求められる、
より高度な研究能力を培います。

神道学専攻 (令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
神道思想特殊研究Ⅰ	演習	2	神道史特殊研究ⅢA	演習	2
神道思想特殊研究Ⅱ	演習	2	神道史特殊研究ⅢB	演習	2
祭祀学特殊研究Ⅰ	演習	2	神道史特殊研究ⅣA	演習	2
祭祀学特殊研究Ⅱ	演習	2	神道史特殊研究ⅣB	演習	2
神道史特殊研究ⅠA	演習	2	神道古典特殊研究Ⅰ	演習	2
神道史特殊研究ⅠB	演習	2	神道古典特殊研究Ⅱ	演習	2
神道史特殊研究ⅡA	演習	2	宗教学特殊研究Ⅰ	演習	2
神道史特殊研究ⅡB	演習	2	宗教学特殊研究Ⅱ	演習	2

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	特殊課題研究Ⅳ	演習	2
特殊課題研究Ⅱ	演習	2	特殊課題研究Ⅴ	演習	2
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	特殊課題研究Ⅵ	演習	2

教授 河野 訓 (かわの さとし)

宗教学特殊研究Ⅰ・Ⅱ

日本の宗教を語るうえで仏教を抜きにして論じることはいけません。この講義では、飛鳥時代、奈良時代に重用された仏典を読む。仏教漢文は特殊であり、その形式は日本書紀等に影響を与えているといわれる。具体的に取り上げるのは『勝鬘經』、『妙法蓮華經』、『大雲輪請雨經』、『安宅神呪經』、『金剛般若波羅蜜經』、『仁王般若波羅蜜經』、『金光明經』、『金光明最勝王經』である。全文を読み終えることは難しいので、それぞれ經典から抜粋して読む。

教授 新田 均 (にった ひとし)

神道史特殊研究ⅢA・ⅢB

前期課程で行った講義や演習の基礎の上に、近世・近代の神道の特徴、意義、問題点をさらに深く理解し、調査研究することを目的とする。特に先行学説の整理検討の仕方、既成概念の枠を超える発想、着実な事実把握の要点、論文執筆の上で必要な技術についての理解を深め、博士論文が執筆できるように指導する。

教授 中山 郁 (なかやま かおる)

祭祀学特殊研究Ⅰ

本授業では、修験道に代表される山岳霊山に対する信仰を、主に「祭祀」との関係から明らかにしてゆく。そのため、本授業では先ず日本の山岳信仰や修験道の歴史的展開について概説した後に、山岳の神祇・権現に対する祭祀という視点から、鳥海山・出羽三山・英彦山など修験一山の祭祀について検討する。そのうえで、本授業を受講する後期課程学生は、和歌森太郎氏・宮本契崇雄氏・神田より子氏・由谷裕哉氏の各論文を読んだうえで、各氏による修験研究の変化について批判的に検討を加えながら解説して頂く。この作業を通じて旧来のパースペクティブをどのように打ち破ってゆけるかを学んでゆることが期待される。なお、授業の後半では各自の専門分野と授業で取り扱ったテーマを結び付けて研究のうえ、その成果を口頭発表・小論文で示して頂く。

祭祀学特殊研究Ⅱ

本授業では、宗教的な修行について、主に信仰集団や地域社会との相関という視点から講義を行う。具体的には、先ず岸本英夫、湯浅泰雄、鎌田東二の各氏による修行研究や心身論を批判的に検討する。そのうえで修行の社会的機能について、修験道やシャーマニズム、禪宗、新宗教教団、さらには吉田神道における祈祷行法の事例をもとに考察を試みるものである。本授業を受講する後期課程学生は、とくに湯浅泰雄氏や鎌田東二氏による心身論について指定する複数の論文を読み込んだうえで、その内容を批判的に検討し、今後修行論を発展させるために必要な方向性を検討する作業を行って頂く。この作業を通じて学生は、クリティカルシンキング並びに新たな研究の開発を試みるという経験を積むことが可能となる。なお、授業の後半では各自の専門分野と授業で取り扱ったテーマを結び付けて研究のうえ、その成果を口頭発表・小論文で示して頂く。

教授 橋本 雅之 (はしもと まさゆき)

神道古典特殊研究Ⅰ・Ⅱ

特殊講義をベースとして、古典テキストの訓話注釈をおこないます。古典資料の読み方、中国文学の影響などの多面からテキストクリティークをおこない、研究者としての調査方法をマスターしてもらいます。

教授 松本 丘 (まつもと たかし)

神道思想特殊研究Ⅰ・Ⅱ

江戸時代に隆盛した垂加神道関係の書物を用いながら、山崎闇斎を始めとする同神道派諸家の思想について考える。

国文学専攻

(令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
古典文学特殊研究ⅠA	演習	2	近代文学特殊研究Ⅰ	演習	2
古典文学特殊研究ⅡA	演習	2	近代文学特殊研究Ⅱ	演習	2
古典文学特殊研究ⅠB	演習	2	国語学特殊研究Ⅰ	演習	2
古典文学特殊研究ⅡB	演習	2	国語学特殊研究Ⅱ	演習	2
古典文学特殊研究ⅠC	演習	2	漢文学特殊研究Ⅰ	演習	2
古典文学特殊研究ⅡC	演習	2	漢文学特殊研究Ⅱ	演習	2
古典文学特殊研究ⅠD	演習	2			
古典文学特殊研究ⅡD	演習	2			

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	特殊課題研究Ⅳ	演習	2
特殊課題研究Ⅱ	演習	2	特殊課題研究Ⅴ	演習	2
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	特殊課題研究Ⅵ	演習	2

学長 齋藤 平 (さいとう たいら)

国語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ

学術研究においては、従来存在しない新たな研究方法の開発が重要である。本研究では、これまでに開発された方法について、仮説、検証、結果、考察、結論の構造に組み替えて確認することを目的とする。こうした研究において培われた知見は、社会人となった後、対象が異なっても十分に応用が可能である。

教授 大島 信生 (おおしま のぶお)

古典文学特殊研究ⅠA・ⅡA

万葉集について考える。まず万葉集について概説し、その後、一首ずつその本文と訓・解釈について考察する。新しい研究成果も取り入れ、新見が出せるように努めたい。古事記についても研究の対象としたい。

教授 木村 尚志 (きむら たかし)

古典文学特殊研究ⅠⅡB

慈円の歴史書『愚管抄』を読む。慈円は歌人、天台座主、政治家として活躍し、その多面的な視点から歴史を捉えた。本書は、「仏の道と法性の理」に基づく世界観を通じて、歴史の推移に潜む道理を説く。

教授 田中 康二 (たなか こうじ)

古典文学特殊研究ⅠC・ⅡC

近世後期の歌人、海野遊翁の書簡を対象にして、これを正確に読解する力と、それに基づいて書簡を文学研究に活用する方法を模索する。

教授 松下 道信 (まつした みちのぶ)

漢文学特殊研究Ⅰ・Ⅱ

道教文献、特に中国近世期に展開した内丹道関連文献を取り上げる。道教文献の読解方法について習熟するほか、儒教や仏教との関係をきちんと押さえた上で、それらが持つ思想的な位置付けまで迫りたい。なお研究対象としては『悟真篇』を取り上げる。

国史学専攻

(令和7年度 参考)

基幹科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
国史学特殊研究ⅠA	演習	2	国史学特殊研究ⅠD	演習	2
国史学特殊研究ⅡA	演習	2	国史学特殊研究ⅡD	演習	2
国史学特殊研究ⅠB	演習	2	国史学特殊研究ⅠE	演習	2
国史学特殊研究ⅡB	演習	2	国史学特殊研究ⅡE	演習	2
国史学特殊研究ⅠC	演習	2	国史学特殊文献研究Ⅰ	演習	2
国史学特殊研究ⅡC	演習	2	国史学特殊文献研究Ⅱ	演習	2

展開科目

授業科目	形態	単位数	授業科目	形態	単位数
特殊課題研究Ⅰ	演習	2	特殊課題研究Ⅳ	演習	2
特殊課題研究Ⅱ	演習	2	特殊課題研究Ⅴ	演習	2
特殊課題研究Ⅲ	演習	2	特殊課題研究Ⅵ	演習	2

教授 遠藤 慶太 (えんどう けいた)

国史学特殊研究ⅠA

皇學館大学附属図書館澤瀉文庫所蔵の藤波家本『令義解』（神祇令）をとりあげ、写本による令文の精読を通して史料の内容を的確に読解し、神祇祭祀の制度・令文解釈の研究方法について自身で考察を深める力を養う。

国史学特殊研究ⅡA

平安前期にまとめられた儀式書『内裏式』をとりあげ、儀式書の精読を通して史料の内容を的確に読解し、これまでの研究史を踏まえながら、平安時代の年中行基の形成について自身で考察を深める力を養う。

研究科長（教授） 岡野 友彦 (おかの ともひこ)

国史学特殊研究ⅠC・ⅡC

「神鳳鈔」の講読を通して中世伊勢神宮領御厨・御園について考察する。また、学術雑誌への論文掲載、全国学会での研究報告などの手助けとなる中間報告も実施する。

教授 多田 實道 (ただ じつどう)

国史学特殊研究ⅠB・ⅡB

『鎌倉大日記』を網文とし、その関連史料を蒐集・併読することで、当時の諸相を考察するとともに、日本中世史研究の具体的方法を探求する。

教授 谷口 裕信 (たにくち ひろのぶ)

国史学特殊研究ⅠE・ⅡE

近代政治史の重要史料である『秘書類纂』や『原敬日記』を講読し、その内容理解をもとに近代国家の形成と展開について考察を深め、あわせて各自の研究能力の向上を目指す。

教授 堀内 淳一 (ほりうち じゅんいち)

国史学特殊文献研究Ⅰ・Ⅱ

歴史『史記』の注釈書の集大成である『史記會注考証』を題材に、古代から続く典籍の注釈の歴史について学ぶ、西洋近代史学と、東洋の伝統的な注釈を比較し、史学の在り方について考える。

教授 松浦 光修 (まつうら みつのぶ)

国史学特殊研究ⅠD・ⅡD

近世思想史の上で、崎門学、水戸学、国学（皇学）はどのような社会的機能を果たしてきたのか、文献に則し、その思想構造を研究していく。

博士後期課程 募集要項

募集人員

神道学2名・国文学2名・国史学2名

出願資格

- (1) 修士の学位を有する者及び令和8年3月迄に大学院の修士課程または博士前期課程修了見込みの者。
- (2) 外国において、修士の学位を授与された者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。

出願期間・試験日

試験場：本学

出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
令和8年 2月2日(月) ～ 2月9日(月)	2月22日(日)	2月24日(火)	(入学金・その他) 2月24日(火) ～ 3月10日(火)

*出願は、学生支援部 入試担当にて9:00～17:00まで受け付けます。
郵送の場合は締切日必着。(土曜日の午後、日曜日、祝日は休業)

選考方法・学力検査・時間割

- (1) 選考は、学力検査・口頭試問・最終出身学校の学業成績によります。
- (2) 試験の成績によっては、入学定員に達しない場合でも入学を許可しません。

専門科目	専門分野における筆記試験	10:00～12:00
口頭試問	主として専攻の学科に関して行う。	13:00～

出願手続

◆出願書類

- (1) 出願確認票
インターネット出願で登録後にプリンターで「出願確認票」を印刷し、送付してください。
- (2) 入学志願者調書(本学所定)
- (3) 修了証明書または修了見込証明書(博士前期課程または修士課程)
- (4) 単位成績証明書(博士前期課程または修士課程)
- (5) 長期履修申請書(本学より送付)※希望者のみ
- (6) 修士論文または、それに相当する論文の写し。

- (7) 修士論文または、それに相当する論文の要旨。(400字詰原稿用紙10枚以内または4000字以内)
- (8) 推薦書(様式自由)※本大学院修了者は不要。
- (9) 外国人の場合は、「在留カード」の両面写し、および「パスポート」の写しを添付してください。
- (10) 入学検定料 30,000円

※郵送の場合は、本学所定の封筒へ出願書類を封入のうえ、書留にて郵送してください。締切日必着。

※(2)は、皇學館大学受験生サイトからダウンロードしてください。

◆出願先 皇學館大学 学生支援部 入試担当

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704

Tel 0596-22-6316(直)

合格発表について

- (1) インターネットによる合否案内は、皇學館大学ホームページの受験生サイトにて合格発表当日10時頃から行います。
皇學館大学ホームページ(<https://www.kogakkan-u.ac.jp/>)から受験生サイトへ



◆注意

- (1) 手続期間経過後の入学手続きは、一切認めません。
- (2) 電話等による合否のお問い合わせには、一切応じません。

入学年度の納付金

(令和8年度 予定)

項目	入学手続時	秋学期	備考
入学金	200,000円	—	本学学部卒業生、本大学院修士課程及び博士前期課程の修了生並びに本学神道学専攻科の修了生は、入学金を免除し、教育充実費を半額とする。 再入学の場合の入学金は、免除とする。
授業料	125,000円	125,000円	
教育充実費	50,000円	50,000円	
計	375,000円	175,000円	

入学手続時の納付金を完納した者が、令和8年3月31日(火)までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除いた納付金を返還いたしますので、該当の際は速やかに学生支援部入試担当までご連絡ください。